



助産診断を考える

理事 青木康子

(川崎市立看護短期大学)

日本の助産婦の歴史は、開業助産婦の歴史でもある。もっとも隆盛をきわめた大正から昭和の20年代にかけては、5万人をくだらない助産婦が開業していた。これらの開業助産婦は、社会的地位も高く、地域住民からの信頼も厚く、地域の名士として尊敬もされていた。

開業助産婦が地域住民から信頼される要因には、優しい、親しみやすい、おもいやりがあるなどの人柄や包容力、忍耐力、指導力などがあげられるが、もっとも重要視されるのは、判断力特に診断能力であったといえる。出産は病気ではないとは云え、まわりまちはえば命とりになることは今も昔も変わらない。妊娠や分娩の経過に対する診断や異常発生時の判断は、母児の生命に直接関与することであり、その重要性については一般社会人も充分承地している。まして開業助産婦が活躍した時代は自宅出産が主であり、助産婦の判断や行動を身近かにみるわけで、診断能力が助産婦の力量の第一の評価基準となることもうなづける。

従って、開業助産婦にとって助産診断は、日常業務そのものであり、助産診断なしでの業務は考えられない。また、診断ミスへの責任は自らが背負わねばならない。その意味では、看護職の中ではもっとも高い専門職性をもっている職種である。しかしながら、あまりにも日常業務であったことと個別活動の形態をとっていたこともあって、個々の開業助産婦のもつ診断能力が優秀であっても、助産診断としての学問的な体系づけがなされないまま

今日に至っている。

平成元年の助産婦学校教育課程の改正では、助産診断学という科目がもうけられ、今までの積み重ねられたものの体系づけが志向されている。ところが時を同じくしてアメリカで発展した看護診断が導入され、今や看護診断ブームが巻き起っており、日本独自の助産診断が未整理な上に看護診断が覆いかぶさり、混乱気味になっているのが現状である。看護診断は、看護婦としての資格と責任において行ない、助産診断は、助産婦としての資格と責任において行うものであり、日本では法的に看護婦と助産婦とは資格を異にし、業務上の責任範囲も異なっている。また、看護診断には、実在型：ハイリスク型：ウエルネス型：シンドローム型などのタイプがあるといわれており、助産診断はウエルネス型に該当するが、ウエルネス型の看護診断については、アメリカでもすすんでいないときいている。日本には、日本の文化にねざした助産があり、助産婦がいて助産診断が行われてきた実績がある。ウエルネス型の看護診断の代表格として助産診断を整えると共に、助産学を構成する柱の一つとして確立するよう努力したいものである。



日本助産学会主催
高橋浩美氏講演要旨

英国の助産婦教育



1995年4月16日(日)
於：東京医科歯科大学

I 助産婦養成コースのいろいろ

英国には大きく分けて2つの助産婦養成コースがある。1つは看護婦免許取得後18ヵ月(1.5年)の助産婦教育を受ける Post-registration Courses と、高校までの基礎教育終了後直接助産婦教育を3年間受ける Direct Entry である。Direct Entry の場合、コースを終了して助産婦免許を得た人達は、看護婦免許を所持しないが、現在の英国の助産婦養成の主流をなしている。最近では Direct Entry の助産婦養成が大学教育化されつつあり、助産学士号 (BA or BSc in Midwifery) と助産婦免許を共に取得できる Direct Entry の方が、助産婦職を生涯の仕事と考える場合には将来的に有利になっている。(18ヵ月コースは専門学校レベルのまま残され、大学教育化の対象にはなっていない。)

1994年の調査によると、英国全体の助産婦養成大学教育課程の定員数452に対して、6532の応募があったと報告されており、大学教育における助産婦養成の人気はかなり高いと言える。

II 教育内容

助産婦教育には、理論に関する学習と実習が必要とされている。その配分は、全体の学習時間のうち33%を理論に、50%を実習に、残りの17%を学校の方針に応じて自由に振り分けられている。Direct Entry の場合、学習時間は自己学習時間も含め約4000時間を目安にしている。大学教育では単位制を取っており、基礎科目として社会学や心理学などが含まれている。全体としてどの科目も教科書はなく、できるだけ多くの文献(特に関係領域の専門雑誌)を読むよう指導され、各単位の評価は学期末に提出するレポートによってなされることが多い。

実習内容は、英国ではEC(European Community)で統一された助産婦教育の基準に従っており、18ヵ月コースでも Direct Entry でも、卒業までに必要な分娩助産数は40例、リスクを伴う妊産褥婦のケアが40例、妊婦健診100例、褥婦のケア100例と定められている。

III 設備について

大学の図書館はできるだけ最新の情報が得られるよう広い領域にわたって専門雑誌の充実がはかられている。また、CD-ROMや Computer rooms も備えられており、学生はすべての施設・設備を24時間いつでも使用することが可能である。また、海外からの留学生のためにスペルチェックの機能のついたワープロも備わっている。

IV 実習形態と評価

英国の助産婦教育で特徴的であるのは、実習におけるメンターシステム(Mentor System)である。このシステムでは、学生と臨床指導者は1:1の関係になる。学生は1学期間(通常10週間)自分を担当してくれる1人の特定の臨床指導者を自ら選択する。学生の実習時間はその指導者の勤務に合わせた形で決められるため、週末に働き、平日に休むということもある。大学教育においては、1年次より授業は週に1~2日しかなく、あとは自己学習や実習のために学生が自分で時間配分するようになっており、学生にはある程度の自主性、積極性、そして自己管理能力が求められる。

実習の評価はすべて学生のレポート(Learning contract)によって行われる。学生は実習中に日記(Reflective journal)をつけるよう指導されるが、レポートはその日記に基づいて作成され、学生は実習中に自分がどれだけ成長したかを具体的に表現することを求められる。

V 資格試験と大学間の相互監督制度

英国では、ENB(English National Board) Examination という国家試験に合格して初めて助産婦免許が取得できる。しかし、助産婦養成の大学教育を修めた者においては現在のところ国家試験は免除されている。その代わりに、教育機関である大学同志間でお互いのレベルをチェックし合っている。具体的には、他大学の教員が任意で学生のレポートを抜き出し、採点し、合格かどうかを判定するという方法をとっている。

VI EC諸国との関連

英国の助産婦教育は、EC(European Community)の一員として、EC諸国間で統一された助産婦教育の基準に沿って行われている。従って英国で助産婦資格を取得した者は、ECに加盟している国であればどこでも助産婦として活動することができる。ちなみにヨーロッパの多くの国では、助産婦教育はDirect Entryが主流であり、英国もそれに準じて考えられる。

VII 資格後の教育、卒後教育

基本的な助産婦教育を終え、助産婦免許を取得した人達は大多数がそのままどこかの病院に就職する。英国ではどこの職場においても、そこで働く個々の助産婦の教育に責任をもつ監督助産婦がおり、何か問題があるときにはその人に相談できるような仕組みになっている。

英国の助産婦免許の更新は3年毎(1994年までは5年毎)であり、更新に際しては常に自分の能力を向上させているという証拠を提示することが求められる。助産婦教育を統括している政府機関(English National Board)が認定している講習会などに出席することで免許更新時に必要な得点を得られるようになっている。他にも臨床で新しい技術を修得したり、研究に参加したりすることでも得点を得られるようになっている。

VIII 大学への編入、大学院教育

助産婦養成を行う大学教育の普及に際し、学士号をもたずに臨床で働いている助産婦達にも、大学の助産学科に編入する道が開かれている。これは日本で免許を取得した助産婦にも開かれた道であり、経験により2年次または3年次に編入が可能である。

英国での助産学の大学院修士課程(MA or MAc)は4箇所ほど設置されているが、博士課程はまだ計画中である(1995年9月に1コース開かれる予定)。ちなみに英国では、学士課程は3年間、修士課程は1年間、博士課程は3年間の修学年限を原則としている。助産学修士課程においては、既存の調査結果を用いて自分独自の判断が下せるようになること、その判断に至った過程を論理的に示せることが要求され、課程終了後は助産学の世界でリーダーとして活躍することが期待されている。

----- 聴講しての感想 -----

英国の助産婦教育において非常に特徴的なのは、Direct Entryのコースが主流になりつつあるということであろう。現在日本における助産婦教育は、全て看護の基礎教育を基盤にして位置づけられている。つまり助産の前提には看護ありきなためである。この2つの教育システムの違いを私なりに解釈してみると、Direct Entryの場合、その内容は出産という社会的出来事、言い換えれば人間の生活の一部にケアを提供する助産婦の教育を行っており、一方日本の場合、健康のあらゆるレベルを踏まえたうえで健康逸脱ではない人間に対してケアを提供する助産婦の教育を行っていると考えられる。

これらのシステムの是非は今後検討されるべき課題ではあるが、今回の高橋氏の講演は、助産学を構築するうえで、助産学とは看護学を踏まえたうえで構築されるものなのか、それとも助産学独自で構築されるものなのかを考えるのに貴重な示唆を与えてくれたことは間違いないだろう。

日本赤十字看護大学大学院研究科
村上 明 美

【第9回 日本助産学会総会報告】

第9回日本助産学会総会並びに学術集会は、1995年3月21日(火)松本市ホテルフェナビスタにおいて、440余名の参加者により盛会に開催されました。総会は13時15分より当日参加会員中の109名の出席のもとに、近藤理事長の挨拶により開会されました。

総会における報告・審議事項の要旨を報告します。

1. 平成6年度会員数について(1月末の状況)

普通会員：1,042名 特別会員：23名

機関会員：19機関

2. 平成6年度収支決算

収入 8,357,279円 (繰越金、会費、雑収入ほか)

支出 7,180,228円 (会議費、事業費、事務費ほか)

繰越金 1,177,051円

3. 理事会報告

理事会は5回開催し、学会の運営・会則の選挙管理規定の審議、国際学術会議の登録完了、文部省科学研究費の国際学会の補助金の申請、寄付金を得て日本助産学会学術奨励基金の設立の検討、入会申し込み者の審査を行った。

4. 庶務報告

1994年1月31日に逝去された会員入江芙美子氏の家族より学会に150万円の寄付を戴いたので、近藤理事長の書状を付して感謝状を贈呈した。

入会申込用紙の検討を行い、研究歴2年以上、助産学分野での業績が1編以上ある者を入会資格者と規定した。

5. 活動報告

渉外委員会：第5回国際助産婦の日の事業について、関連機関と折衝した。

会則委員会：日本助産学会評議員選出に関する規定と、選挙管理委員の委嘱についての検討をした。

第1条 理事会は、2地区以上にわたる普通会員の中から5名の選挙管理委員を委嘱する。選挙管理委員は、選挙権及び被選挙権を有する。

第3条 当該年度の会費を、6月30日までに納入した普通会員は選挙権を有する。

第5条 選挙権及び被選挙地区は、会員の都道府県名の登録を受けて定める。

日本学術会議担当：日本学術会議便りの日本助産学会誌への掲載

科学研究費補助金の「研究成果公开发表B」への応募

広報委員会：国際助産婦の日のポスターを日本看護協会、日本助産婦会、日本助産学会で検討して作成し、関連機関に発送した。

国際助産婦の記念行事開催地へポスター・リーフレットを送付した。

ニュースレター、第14号、第15号、第16号を発行し送付した。

国際委員会：ICMからの関連事項の処理や、情報を会員に提供した。ICMのニュースレターが一般会員も申込み購読できるようになった。

編集委員会：学会誌第8巻1号の編集発行した。学会創立10周年記念論文を募集する。

学術振興委員会：平成6年8月27日に札幌で第7回日本助産学会ワークショップを開催した。

業務・教育検討委員会：「助産学会設立10周年の歩み」について検討中

将来の助産婦のあり方検討委員会：CNSや専門看護婦制度が検討されている昨今、本学会においても将来の助産婦教育や業務を検討する必要から本委員会が発足した。国内外の助産婦に関する情報を収集しながら、専門助産婦のありかた、認定基準などの検討を開始した。

以上の他、第9回助産学会学術集会準備状況が報告され、3月21日の参加登録者が441名と報告された。

6. 審議事項

1) 平成7年度事業計画

- (1) 第10回学術集会開催
- (2) 学会誌・ニュースレターの発行
- (3) 助産学に関する研究の振興
- (4) 助産婦の業務・教育についての検討
- (5) 将来の助産婦のあり方検討
- (6) 国際助産婦の日に関する事業の実施
- (7) 国際助産婦連盟及び関連団体との交流
- (8) 創立10周年記念事業
- (9) 次期評議員・役員選挙
- (10) 運営に関する会議開催(総会1回、評議員会1回、理事会5回)

上記について、一括審議して採決し、提案通り決議された。

2) 平成7年度収支予算案

収入 8,477,051円 (繰越金、会費ほか)
 支出 8,248,518円 (会議費、事業費、事務費、予備費ほか)
 繰越金 228,533円

別途会計……使用規程を作成し学会の充実、発展を図りたい。

学会への寄付金 2,318,924円

入江氏からの寄付 1,500,000円

一括して会員に図り、予算案通り決議された。

3) 会場から提案

阪神大震災の罹災者に本学会とし妊産婦への支援と、支援活動をする学会員への活動費援助をしたい。

学会としては、予備費から10万と全理事からの寄付金をあわせて23万円送金しているが、会員からの支持が得られれば、組織だった募金活動の検討をしたい(理事長)。

<次々期学術集会会長紹介>

第11回学術集会会長として、評議員会で選出された竹内美恵子徳島大学医療技術短期大学部助教授を近藤理事長から紹介された。

次期学術集会会長に決定している、三井政子岐阜大学医療技術短期大学部教授より1996年3月17日に第10回学術集会が開催される案内と、前日の3月16日に10周年記念行事を同会場で開催することについて紹介された。

【第9回日本助産学会評議委員会開催報告】

1995年3月20日(月) ホテルブエナビスタ葵の間において、出席25名、委任状12通により開催された。理事会・各委員会の報告および入会申込書・入会案内の変更について了解を得た。総会提出事項と収支予算案の審議、および第11回学術集会長の選出が行われた。

(庶務担当理事 小木曾、文貴 平澤)



平成7年6月1日

会 員 各 位

日本助産学会選挙管理委員会

日本助産学会評議員選挙 告示

下記のとおり評議員選挙が実施されます。
評議員選挙の投票用紙は、各普通会员の連絡先に、11月中旬に事務局から直接お送りしますので、送付される所定の用紙を使って指定の期日までに投票して下さい。

1. 選挙人および被選挙人

- (1) 平成7年6月30日までに会費納入者名簿掲載の普通会员を選挙人とします。
- (2) 被選挙人は、入会年度を含めて3年以上経過した普通会员とします。

2. 選挙の実施及び方法

- (1) 評議員の選挙は地区別に行います。(選挙・被選挙権を有する普通会员は、本人の意思に基づき、職場または居住地のいずれかを、選挙・被選挙希望地区として登録することができます。)
- (2) 地区別は、北海道・東北・関東(東京を除く)・甲信越・東京・東海・北陸・近畿・中国・四国・九州・沖縄の8地区単位に選出します。
- (3) 投票締切 平成7年11月30日(当日消印有効)
- (4) 投票用紙送付場所
〒102 東京都千代田区富士見1-8-21
東京都助産婦会館 4F
日本助産学会選挙管理委員会
- (5) 開 票 平成7年12月9日 午前9時半より
- (6) 開票場所 (4) と同じ
- (7) 投 票

- (イ) 投票は無記名とし、各所属地区の評議員数を連記します。被選挙人名簿をみて、正しい氏名を記入して下さい。
- (ロ) 投票用紙は本委員会所定のものを用い、かつ同封の封筒を用いて郵送して下さい。(内封筒は無記名、外封筒は住所氏名を記入して下さい。外封筒に住所氏名のないものは無効とします)
他の用紙による投票は無効となります。
投票用紙に他事記入のあるものは無効とします。

3. 当選人の決定

- (1) 地区別にその有効投票の最多数を得た者から順次当選人とします。
- (2) 同じ得票数の者が2人以上のときは、委員長が抽選で当選人を決定します。
- (3) 当選人が決定したときは、委員会は当選人に当選の旨を通知します。

4. その他疑義が生じた場合は、その都度選挙管理委員会において決定します。

第 24 回 I C M オ ス ロ 大 会

言語；英語、フランス語、スペイン語、スカンジナビア語の同時通訳
 (全体会場の午前のみ、他は英語)

▼第 24 回 ICM オスロ大会、大会前ワークショップのご案内

1996年5月26～31日 ノルウェーのオスロで開催予定の ICM (国際助産婦連盟) 大会に先立って、下記のワークショップが開催されるとの通知がありましたのでお知らせします。

記

- 目 的 主として発展途上国で、コンサルタント/アドバイザーとして活動を希望する助産婦のためのコース
- 対 象 経験豊富な助産婦
- 定 員 40 名
- 期 日 1996年5月23～26日
- 使用言語 英語のみ
- 参加費 £ 125 (英国ポンド)

参加希望者は「要項」(further details)を直接下記に請求の上、申し込んで下さい。

ICM Headquarters

10 Barley Mow Passage London W4 4PH, UK (国際委員会)

▼登録案内・登録料

	1995年10月30日まで	10月31～1996年3月1日まで	3月2日以後および当日
全日登録	4,000 ノルウエークローネ	4,900 ノルウエークローネ	5,900 ノルウエークローネ
1日登録	適用せず	適用せず	1,200 ノルウエークローネ
同 伴 者	1,400 ノルウエークローネ	1,400 ノルウエークローネ	1,400 ノルウエークローネ

- プロシーディング；英語 500 ノルウエークローネ、予約して下さい。
- キャンセル；1996年3月1日以前の書状によるものは25%の手数料、3月1日を過ぎたものは100ノルウエークローネの手数料を徴収し、終了後清算。

▼ホテル料金(ノルウエークローネ)ノルウエー式朝食付き/1人1泊/特価

5～6月のオスロのホテルは混雑するので早めの予約を勧めます。1996年1月1日より付加価値税徴収の予定率は未定、本表は税を含まない。

等級	シングル	ダブル/ツイン	予約金
A	1,000～1,500	640～995	1,000
B	700～995	350～550	700
C	435～695	275～440	500
D	-	185～200 (4床室)	200

国際級(レソオスロプラザを含む、会場へは歩行距離)

1級またはツーリストクラスの上級、オスロのダウンタウンにあり、会場への所用時間は15～20分

ユースホステルまたはこれと同等クラス2～4床室、限定数、先着順で他の参加者と合部屋を割り当てる。バス付きまたはバスなし。会場へ20～30分。

▼社交行事

1. ノルウェーの助産婦の歴史展示
2. 見学/ノルウェーの家庭訪問
3. オスロ ハイライト 3時間の観光バス 280ノルウエークローネ
4. ドロバウ(サンタ村) 4時間の観光バス 330ノルウエークローネ
5. 博物館見学を含む 5時間の観光バス 530ノルウエークローネ
6. ガラス工場を含む 4時間の観光バス 385ノルウエークローネ

▼大会後の観光旅行

- 2日1コース
(200ノルウエークローネ)
- 4日4コース
(650～950
ノルウエークローネ)

第24回 ICMオスロ大会、プログラム

大会テーマ；助産の科学と技術はよりよい未来を産む
 開催地；ノルウェーオスロ市
 会場；オスロ スペクトラム

午前中の休憩後からの
 講演は1時間で参加者
 午後は一般口演による

1996年 5月26日(日)	5月27日(月)	5月28日(火)
登録 (25日900-1700) (26日900-1000)	900-1000 基調講演 女性と子どもの健康政策 ノルウェー保健省 ワナー クリステイ	900-1000 基調講演 出産と助産における文化的多様性 WHO東南アジア地域看護専門官 D. V. サンガカホキ
	1000-1030 休憩	1000-1030 休憩
	1030-1200 講演 テーマ 1 生殖と乳児保健 女性の健康-出産時の死亡と罹 病への影響	1030-1200 講演 テーマ 1 生殖における健康 戦争 内戦下の女性、子ども 助産婦
	テーマ 2 文化的差異 ヨーロッパの助産(3か国の例)	テーマ 2 文化的差異 アフリカの助産(3か国の例)
1500-1600 宗教的儀式 オスロ大聖堂 ローズマリー カーン司教	テーマ 3 心理学的側面 女性の出産体験	テーマ 3 心理学的側面 胎児と新生児
	テーマ 4 生理学的側面 早産、原因と治療	テーマ 4 生理学的側面 正常分娩時の技術の役割-倫 理的側面
	テーマ 5 教育と研究 教育は助産婦の役割をどの ように強化するか	テーマ 5 教育と研究 研究のプロセス -科学論文の読み方
	1200-1330 昼休み	1200-1330 昼休み
1630-2130 開会式 歓迎のことば 会長講演 祝辞 レセプション	1330-1500 分科会	1330-1500 分科会
	1500-1530 休憩	1500-1530 休憩
	1530-1700 分科会 (つぎ)	1530-1700 分科会 (つぎ)
-開会式出席者の民族衣装着 用を歓迎します-		

講演は、5つのテーマから選んで参加して頂きます。参加希望の講演を予め登録して下さい。
の質疑がその後に続きます。

分科会と、ワークショップおよびビデオセッションがあります。

5月29日(水)	5月30日(木)	5月31日(金)
<p>900-1000 基調講演 女性の経験-出産の隠れた結果 メルボルン 王立女性病院内 ラトローセ大学 助産学 教授 ウラ ワルデンストロム</p> <p>1000-1030 休憩</p> <p>1030-1200 講演 テーマ 1 生殖における健康 母乳栄養 赤ちゃんがやさいしい病院 キャンペーン</p> <p>テーマ 2 文化的差異 アジア太平洋の助産(3か国の例)</p> <p>テーマ 3 心理学的側面 出産時の父親達</p> <p>テーマ 4 生理学的側面 妊娠中のケア-知られていること、 知られていないこと</p> <p>テーマ 5 教育と研究 実験的及び記述的研究(デザイン、データ収集、分析、実施)</p> <p>1200-1330 昼休み</p> <p>1330-1500 分科会</p> <p>1500-1530 休憩</p> <p>1530-1700 分科会 (つぎ)</p>	<p>900-1000 基調講演 教育と研究を通じての女性のニーズ 応える マライ大学カズ看護学部 講師 トロシー ナマ</p> <p>1000-1030 休憩</p> <p>1030-1200 講演 テーマ 1 生殖における健康 発展途上国における安全な母性 実現のための方略</p> <p>テーマ 2 文化的差異 アメリカの助産(3か国の例)</p> <p>テーマ 3 心理学的側面 助産の心理学</p> <p>テーマ 4 生理学的側面 ケアの適切なレベル 出産の場所</p> <p>テーマ 5 教育と研究 記述的研究(デザイン、データ収集、 分析、実施)</p> <p>1200-1330 昼休み</p> <p>1330-1500 分科会</p> <p>1500-1530 休憩</p> <p>1530-1700 分科会 (つぎ)</p> <p>1900-2200 ノルウエー ナイト</p>	<p>900-1000 基調講演 民族を超えて出産#変わる 英国「出産を変化させる会」会長 ケート ジャクソン</p> <p>1000-1030 休憩</p> <p>1030-1200 閉会式 ICM報告(1993-1996年) 退任 ICM会長挨拶 ソニア I. ショーリ ICM新会長就任式 ICM新役員就任式 次期 ICM大会への招待</p>

【 ICM スポンサー ア ミッドワイフ (国際基金) 募金について 】

ICM本部では、オスロで開催される第24回ICM大会において、カナダで開催したときと同様に発展途上国助産婦の参加費用の援助として国際的な基金を集めております。日本に対しても加盟団体に援助を依頼してきております。1人当り、プレ コンgress ワークショップへの参加費を含めて、£ 3,500 (英ポンド、為替レートにもよるが、約560,000円)です。日本助産学会でも5月20日の理事会で援助することが決議され、日本助産学会国際基金の口座を設けました。

口座番号：00190-8-710931 日本助産学会国際基金
1口 : 1,000円

一人、何口でも結構ですので、会員の皆様からの募金をお待ちいたしております。

【 日本助産学会 学術講演会のお知らせ 】

WHO コンサルタント、M.ワグナー博士の来日に合わせて、下記の学術講演とシンポジウムを企画しております。お問い合わせのうえご参加下さい。

1. 目 的 WHO出産科学技術についての勧告をもとに“いいお産”の実現を目指して、女性と助産婦が語り合う機会とする。
2. 期 日 平成7年9月1日(金) 14:00~17:00
3. 内 容 1) 学術講演：M.ワグナー博士
『妊産婦の基本的権利としてのケア—
WHO出産科学技術についての勧告……』
2) シンポジウム
『ともに創ろう！お産』
4. 会 場 シビックホール：東京都文京区春日1-16-21 TEL 03-5803-1100
(地下鉄丸の内線後楽園下車徒歩1分、都営地下鉄三田線春日駅下車1分)
5. 参 加 費 学生・一般 1,500円、助産婦・保健婦・看護婦・医師 3,000円
6. 申し込み先 日本助産学会 郵便振替 00100-5-83244(当日、振替用紙を持参下さい)
尚、定員350名に達し次第締切らせて頂きます。

【 阪神淡路大震災の援助基金の募集について 】

日本助産学会では、今般の阪神淡路大震災の援助基金として予備費から10万と全理事からの寄付金をあわせて23万円の送金と、第9回助産学会時に、会場よりの募金を行い援助基金として差し上げました。なお総会時に、学会としての組織だった支援活動を行いたいとの提言があり、これを理事会で検討し「阪神淡路大震災の援助基金」の募金を行うことが決議され、下記の口座を設けました。

口座番号：00100-4-578570 日本助産学会 阪神大震災募金
1口 : 3,000円 〆切 8月31日

一人、何口でも結構ですので、会員の皆様からの募金をお待ちいたしております。



◆◆◆ 第10回日本助産学会学術集会開催のご案内・演題募集 ◆◆◆

第10回日本助産学会学術集会を下記のとおり開催いたします。有意義な学術集会となりますよう、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会長 三井政子

1. 期 日 1996年3月17日(日) 9:30 ~ 17:00
2. 会 場 名古屋市
3. プログラム *一般演題; 口演・示説(ポスター・ビデオセッション)
*会長講演、*シンポジウム等、*日本助産学会総会
4. 演題募集要項
 - 1) 申し込み資格 : 共同研究者も含めて全て会員に限られております。
 - 2) 発表形式 : 口演 …… 口頭で発表を行い、スライドが使用できます。
発表時間10分。
※助産診断・助産技術の演題を特に募集しています。
示説 …… ポスターセッションは、掲示板を用いて発表します。
ビデオセッションは、VHSビデオテープ(15~20分)を用いて発表します。
発表者を囲んで、直接自由討論ができます。
 - 3) 申し込み方法 : 下記の事項を官製薬書に記入し、1995年8月31日(木)〈消印有効〉までに送付してください。

1. 演題名
 2. 研究者名(共同研究者も含む)
 3. 日本助産学会会員番号(共同研究者も含む)
 4. 連絡先 … 氏名・郵便番号・住所・電話番号

- 4) 原稿の提出 : 集録は写真印刷にします。出来上がりはB5版です。
原稿はA4版、43字×40行、2段組、片側20字とし、中心3字の空きをおきます。図表を含めて4枚以内とします。
演題申し込みの方には、あらためて執筆要領を送付します。
原稿締切は、1995年10月20日(金)〈必着〉です。
- 5) 申し込み先 : 〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
名古屋市立大学看護短期大学部
第10回日本助産学会学術集会事務局
TEL・FAX 052-853-8067
- 5. 学術集会参加・懇親会参加について
 - 1) 参加費 : 学術集会参加費 8000円(1996年1月20日以降は、9000円)
懇親会参加費 8000円
 - 2) 申し込み方法 : 会員には郵便振込用紙を送付しますので、参加希望の方は一人1枚を使用して申し込んで下さい。
参加申し込みをされた方には、第10回日本助産学会学術集会集録を事前に送付する予定です。
- 6. 日本助産学会設立10周年事業について
記念式典と記念講演会を3月16日(土) 午後に同会場で開催します。

〇〇〇〇〇 日本助産学会設立10周年 〇〇〇〇〇

記念論文の募集!!

来る平成8年3月、名古屋で開催される第10回日本助産学会総会において、設立10周年記念式典がとり行われます。それに関連する特別事業として、記念論文を募集することになりました。次の要項により振ってご応募下さい。

1. 応募資格

日本助産学会会員に限る。

2. 応募要領

- (1) 助産学の発展や助産婦の将来に関連した内容であれば形式は自由です。
- (2) 応募論文の内容は、他の出版物(国の内外を問わず)に未発表のものに限ります。
- (3) 論文の長さは、原稿用紙B5版(400字詰)に横書き、30枚(図、表を含む)を原則とします。図、表、写真等は大小にかかわらず1点を原稿用紙1枚として計算します。
- (4) 執筆要領については、日本助産学会誌投稿規程に準じます。

3. 締切

平成7年12月10日(日)消印有効です。

4. 選考

記念論文選考委員会(日本助産学会理事若干名及び編集委員で構成)を設置し、委員会で選考します。

5. 賞について

最優秀の論文については、日本助産学会設立10周年記念式典において発表し、賞状ならびに賞金を贈呈します。また、日本助産学会誌第10巻第1号に掲載します。

6. 応募論文の送付及び問い合わせ先

- (1) 原稿には、表題、英文表題、著者名(ローマ字とも)所属機関名、連絡先及び電話番号を書いた表紙をつけて下さい。
- (2) 原稿は、正副2部作成し、10周年記念論文と朱書きした封筒に入れ、必ず書留便で、下記宛郵送して下さい。

〒102 東京都千代田区富士見1丁目8番21号

日本助産学会事務局

電話 03-3221-1020

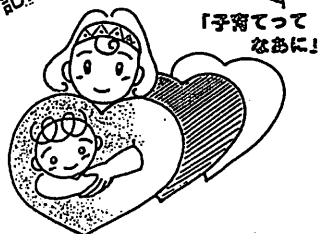
(註) なお、例年の研究論文の〆切は、平成7年7月31日です。こちらへのご投稿もお待ちしております。



平成7年 第5回国際助産婦の日の記念行事の開催

—今年には方々で開催されましたが、事務局に報告のあった箇所のみ紹介します—

第5回近畿地区

国際助産婦の日の集い
記念講演・シンポジウム

とき 1995年4月21日(金) 13:00~16:00

ところ 和歌山県民文化会館 小ホール

主催 近畿地区日本助産学会

近畿地区日本助産学会

後援 和歌山県

和歌山県看護協会

協賛 和歌山県産婦人科医会

次 第

12:20 受付 開場

12:50 オリエンテーション

13:00 開会 会長挨拶

13:10 特別記念講演

「育児における納得の意味」

和歌山県立医科大学名誉教授

山本 宏先生

14:10 休憩

14:25 シンポジウム

テーマ「子育て支援と助産婦」

座長 木下純子先生(和歌山市中央保健所所長)

シンポジスト

相談所の立場から 桑原義登先生(中央児童相談所)

助産婦の立場から 露詰雅子先生(国立南和歌山病院)

母親の立場から 銀川美奈先生

16:00 閉会

近畿地区における「国際助産婦の日の集い」は、和歌山で開催した。

最初に、和歌山県立医科大学名誉教授による「育児における納得の意味」の講演が行われた。「現在、子どもの非行や暴力・いじめ・不登校などの問題がとりあげられているが、その根源に親と子のきずながないこと、きずなづくりに助産婦が果たす役割の大きさ」を力説した。

その後、「子育て支援と助産婦」をテーマにシンポジウムが行われた。相談所の立場からは、「児童相談所での育児相談の内容や問題点などを報告し、乳幼児期の育児のあり方や関係者の連携と支援の必要性」を問題提起した。助産婦の立場からは、開業助産婦と勤務助産婦が共同で取り組んでいる育児相談の活動を紹介した。「育児で悩んでいる母親が多い。先輩助産婦の技術を受け継ぎ、病院から地域へと産褥・育児の母子支援ネットワークを広げていきたい」と主張した。母親の立場からは、「育児をしていくなかで悩みや要望」が出された。そして「地域のなかで助産婦に相談できる機会や場の提供」が強調された。フロアからは、保健所勤務医師より保健所での育児支援活動が紹介され、助産婦としての特性を生かした役割が提起された。



また会場内に、育児支援活動や育児相談などの様子を展示・紹介した。

参加者数は、445名であり、子ども連れの母親の参加もあり盛会であった。

この集いについては後日、新聞に「国際助産婦の日の集い」として写真入りで掲載された。

(文責 小谷 典子)

『国際助産婦の日』愛知県第四回集会開催


 メインテーマ『家族とお産』
 

▼主催 『国際助産婦の日』愛知県第四回集会実行委員会

実行委員長 佐藤 達子

社団法人 日本助産婦会愛知県支部・社団法人 愛知県看護協会助産婦職能

日本助産学会・愛知県助産婦教育協議会

1. 期 日 平成7年4月22日(土) 10:30~16:00

2. 場 所 名古屋市女性会館 3階大研修室

名古屋市中区大井町7番地25号

3. プログラム

(1) 相談コーナー(10:00~)

妊娠・分娩・産褥(肥満・尿漏れなど)、母乳・育児・避妊、更年期のことなど、それぞれのコーナーを設けて助産婦がお答えします。

(2) 基調講演「いのち・愛・子育て — 子育てネットワークの出發 —」

講演者 増山 均 日本福祉大学教授

紹介 1972年東京教育大学文学部哲学科卒業

著書「子ども研究と社会教育」青木書店

「地域づくりと子育てネットワーク」大月書店

「子どもの権利条約と日本の子ども子育て」部落問題研究所

(3) パネルディスカッション

テーマ 『家族とお産』

座長 清水 亮・村瀬 恵子

パネリスト

神谷 真由美

わが子の誕生を夫と実母とともに迎えた喜び

五十島すず子

娘の出産に立ち会って

堀内 きよみ

家族に支えられての妊娠・出産・育児

豊島 洋司

夫の立場からお産を考える

4. 参加費

助産婦：1,000円、一般参加：500円(看護婦・学生)

5. 開催状況

•参加数 130名

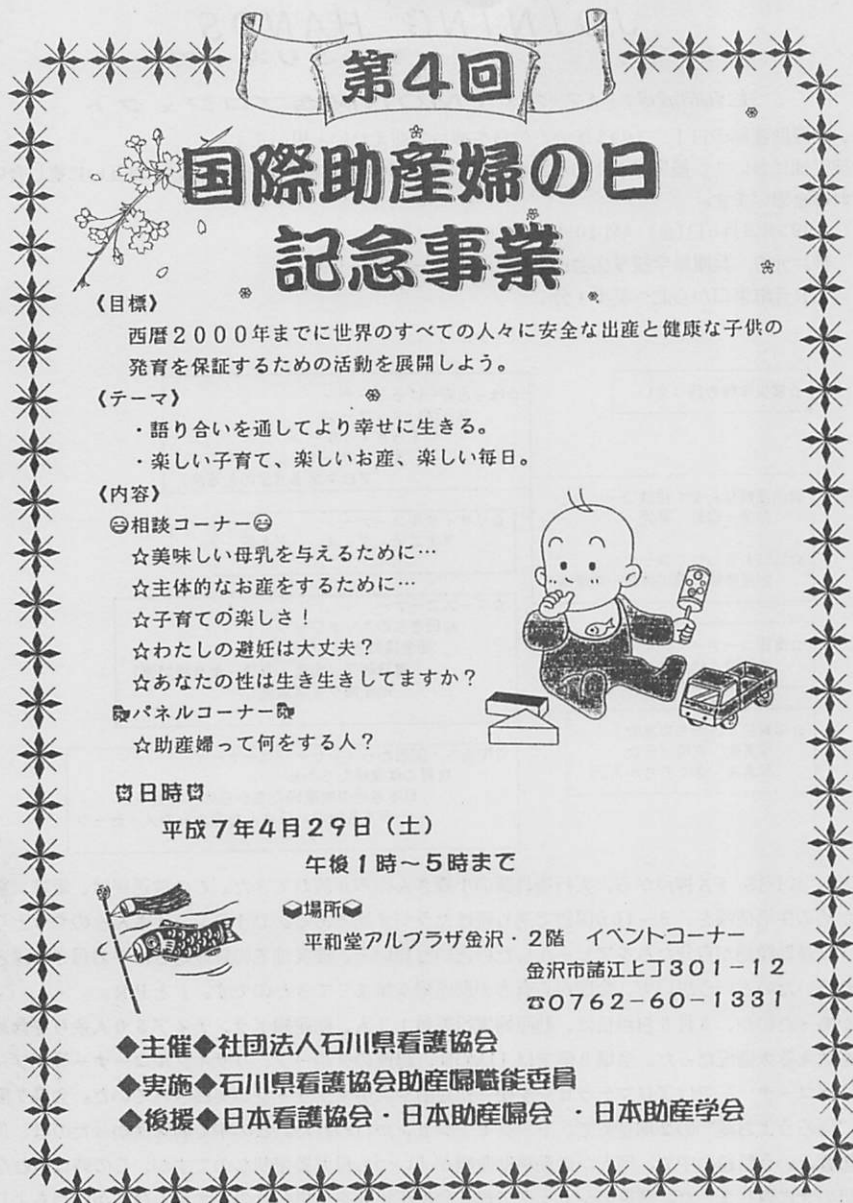
•今年から新しく午前中に企画した相談コーナーであったが、広報不足のためか参加者は少なかった。

•基調講演では、増山先生の家族立ち会い分娩の動機・体験から「生まれる」という現象が「生きる」ことの意義を教えてくれる、ということを実感した。多少の害を恐れず、家族が望むなら助産婦は立ち会いのチャンスを奪ってはならないと思い、また、「生まれる」ことの素晴らしさ「生きる」「育てる」ことの中にもずっと保ち続けられるような、そんな子育ての方向を、助産婦の仕事を通して伝えていくことの必要性を痛感した。

•パネルディスカッションでは、立ち会い分娩を経験した本人・夫・家族等から、熱意のこもった感想・意見をきき、妊産婦・家族の希望を叶え安心して出産に臨めるよう努力すること、どこでも立ち会い分娩ができる準備をすることの重要性を一層強く感じさせられた。



(文責 小木曾みよ子)



第4回 国際助産婦の日 記念事業

〔目標〕
西暦2000年までに世界のすべての人々に安全な出産と健康な子供の発育を保证するための活動を展開しよう。

〔テーマ〕

- ・語り合いを通してより幸せに生きる。
- ・楽しい子育て、楽しいお産、楽しい毎日。

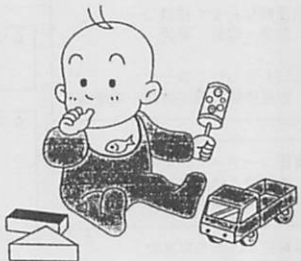
〔内容〕

◎相談コーナー◎

- ☆美味しい母乳を与えるために…
- ☆主体的なお産をするために…
- ☆子育ての楽しさ！
- ☆わたしの避妊は大丈夫？
- ☆あなたの性は生き生きしていますか？

◎パネルコーナー◎

- ☆助産婦って何をする人？



開催日時
平成7年4月29日（土）
午後1時～5時まで

◎場所◎
平和堂アルプラザ金沢・2階 イベントコーナー
金沢市諸江上丁301-12
☎0762-60-1331

◆主催◆社団法人石川県看護協会
◆実施◆石川県看護協会助産婦職能委員
◆後援◆日本看護協会・日本助産婦会・日本助産学会

▼参加者：105名（一般94名、職能委員11名）

主な相談内容：

- ・助産婦になるためのコースについて
- ・アレルギーと牛乳の関係
- ・断乳法
- ・結婚後の家族計画
- ・エイズ
- ・離乳食のすすめ方
- ・赤ちゃん体操
- ・自宅分娩
- ・妊娠中の気分転換 など。

一般の方々からは気軽に参加できるこのような催しを今後も設けてほしいや、更年期や思春期の相談の希望もあり、助産婦は幅広い知識と行動力をもつことの必要性を感じた。

（文責 坂井 明美）

国際助産婦の日 IN KOBE
JOINING HANDS

— 手をとりあって —

主催助産婦ネットワーク JIMON 関西プロジェクト

5月5日は、国際助産婦の日！ 1995年のこの日を神戸で迎えたいと思います。

阪神大震災の被災地において、被災されたおかあさん方や助産婦仲間の体験を分かち合い、お互いに癒し合い、学び合う機会にできればと思います。

- 日 時 1995年5月5日(金) AM 10時～PM 6時
- 場 所 神戸元町 兵庫県学校厚生会館 (TEL 078-331-9955)
JR元町東口から北へ徒歩1分

■入場無料

■内 容

<p>☆震災体験の語り合い</p>	<p>☆ほっと安らげるコーナー おっぱいマッサージ やすらぎマッサージ オイルマッサージ アロマ足湯 (足のお風呂)</p>
<p>☆助産婦なんでも相談コーナー お産・母乳・育児</p> <p>☆私にも言わせてコーナー 出産体験・震災体験・助産婦へ</p>	<p>☆リサイクルコーナー マタニティグッズ、こども服</p>
<p>☆情報コーナー 助産院・助産婦マップ</p>	<p>☆ブースコーナー お母さんのネットワーク 助産婦のネットワーク 書籍販売 (出産・育児・助産婦関連) 助産婦グッズ販売</p>
<p>☆写真展「いのちの息吹」 写真家 宮崎雅子氏 写真家 きくちさかえ氏</p>	<p>☆関西へ・関西からメッセージコーナー 世界の助産婦たちから 日本各地の助産婦たちからのメッセージ 日本各地のお母さんたちからのメッセージ</p>

4月21日の朝、KISS FA神戸から、実行委員長の小森さんの声が流れてきた。この放送局は、阪神大震災直後から地元の人のための生活情報を、8～10カ国語で送り続けたラジオ局である。DJのシーナさんとのやりとりの中で、小森さんは、「私達助産婦が自分たちをアピールしたいという思いと、被災地での妊産婦さんやお母さん達と、こんな時こそ手を取り合いたいという思いで、全国から有志の助産婦が集まってきたのです。」とPR。

宣伝の効果があつたのか、5月5日当日は、助産婦実行委員15人、助産婦ボランティア50人余りを含め、当日入場者約350人を数える大盛況だった。会場2階ではJIMON、母達のグループ、リサイクルコーナー等がブースを置き、「ほっとやすらぎコーナー」ではアロマセラピーを使った足浴や乳房マッサージが実践されていた。会場7階では、「語ろうよ震災」「語ろうよお産」の2部立てで、トークセッションが行われた。この中で興味深かったのは、母乳分泌に対する震災の影響という話題の中で、何人かの勤務助産婦が「いつも母乳異室制なのですが、この時はやむなくほとんどの新生児を母の元に戻しました。震災のショックで母乳分泌不足等を予想したのですが、なにかいつもより母乳分泌が進んだような気がします。同室のせいでしょうか？」と発言。また、ある開業助産婦は「みなさん(勤務助産婦のこと)のお話を聞くと、『暗闇の中でのお産が大変だった。』とのことですが、私は常々、いかに暗く静かにできるかを考えながらお産を介助しているので、聞いていてギャップを感じています。」と貴重な発言をして下さった。

今回のイベントはまず“成功”と考えてよいと思うが、助産婦ボランティアのアサイメントを担当した私としては、終了後、少し気になることが出てきた。参加して下さった助産婦に名簿作成の許可を得るための葉書を送付したのだが、その返信として、「がんばって下さい。」「活躍を期待しています。」「折っています。」という言葉がとても多い。今回は、被災地を応援したいという気持ちで、たまたまこの地に助産婦が集まっただけであって、地域助産婦の活動は、どの地でも、どんな形ででも、ずっと続いていかななくてはならないはずである。

主体的なお産を考えているはずの助産婦自身が、主体的でなくてどうするの？私のこんな疑問に答えを出すべく、また次の語り合う機会を産み出していきたいと考えている。

(文責 小竹 雪枝)

第5回国際助産婦の日



世界のすべての人々に
安全な出産と健康な子供の
発育を願って活動しています

家族みんなでマタニティフェスティバルに行こう

平成7年6月4日 13:00~16:30

- ▼マタニティフェスティバル
- | | | |
|----------------------|--------|--------|
| | 1回目 | 2回目 |
| ①コンサート(バイオリン・ピアノ・朗読) | 13:00~ | 15:00~ |
| ②マタニティピクス インストラクター | 13:30~ | 15:30~ |
| ③ファッションショー | 14:00~ | 16:00~ |

▼助産婦による相談コーナー
妊娠中・産後の生活・母乳のこと・育児について等、
お気軽にご相談下さい。

▼ユニセフ募金：世界の母子への援助募金を行っています

▼場所：徳島市川内町平石『大塚製薬ヴェガホール』

☆入場無料，参加者に粗品進呈
☆保育設備あります

主催：日本助産婦会徳島県支部
日本助産学会
徳島県看護協会
共催：大塚製薬株式会社

◇主催◇ 日本助産婦会徳島県支部，日本助産学会，徳島県看護協会，ICM(国際助産婦連盟)

◇共催◇ 大塚製薬株式会社

◇後援◇ 徳島県，徳島市，徳島県母性衛生学会，徳島県小児保健学会，徳島市保母会，
徳島県私立保育園連盟，徳島県国公立幼稚園長会，徳島県私立幼稚園協会，
徳島県女性協議会，朝日新聞社徳島支局，徳島新聞社，毎日新聞徳島支局，
読売新聞社徳島支局，NHK徳島放送局，四国放送株式会社

阪神淡路大震災地からの便り

~~~~~ 震災お見舞ありがとうございました ~~~~~

兵庫県立総合衛生学院 立山サナミ

地震で目を覚まされ、鏡台の下へ頭だけでも潜らせようと思った。歩けない。よつんばいで鏡台の前へ、錐揉み状態にゆれる。しかし、椅子を引っ張り出すことができない。家が壊れそうなものすごい音（水屋が倒れ、水屋の中や上に乗せてあった食器が全て割れたが、その音は記憶にないのでいかに音が大きく、凄まじかったかが分かっていただけだと思う）がする。家がつぶれる、もう死ぬ。と思ったとたん地震が止まった。あわてて外へ飛び出した。隣近所の全ての人が道にあつまると。「立山さーん」と呼ぶ声がある。行って懐中電灯で照らすと、老女の顔から胸元まで血だらけである。タオルを持ち、散水せんを廻したが水が出ない。日頃から飲んだり煮炊きをする為に買っている六甲の地下水がポリタンクに半分残っていたのが幸いし、その水で処置することができた。勤務先で、居住地で、あるいはボランティアとして、震災地に住む看護職員は全ての者が被災者の援助にあたった。

日本助産学会会員の被害は、家屋の全壊、半壊が5名で、箆筒が倒れたり、食器が割れたり等の被害は、震災地に住む会員の全てが被った。

お見舞の一部と、松本市における日本助産学会開催時における資金カンパ等で実施しております、母子支援活動も順調に行なわれて



おり、震災で母乳が出なくなった母親、母乳を飲まなくなった10か月児、母親教室が開催されていないために知識を求める妊婦等多くの母子に感謝されている。

外国人の世話をしている方につれられてきた、産後の出血と腰痛、および乳房緊満痛に悩む日本人妻となったフィリピン女性は、震災で家がつぶれたが主人の実家に住まわせてもらえず、心配してフィリピンから駆け付けてくれた実母と共に、妹の婚約者である日本人家庭に身を寄せているという。震災がもたらしたものにこのような事態があることも教えられた。

ボランティアの病院勤務助産婦にとっても、多くの学びの場となっています。資金が続くかぎり支援活動を行なう予定です。今後とも支援くださいますようお願いいたします。

## ~~~~~ 事務局だより ~~~~~



- \*総会を終えて本年度の事業活動が開始されました。まずはICMスポンサー アミッドワイフ（国際基金）と、阪神淡路大震災の援助基金をお願いいたします。
- \*来年は本学会も10周年を迎えます。日本学術会議学術研究団体としての登録も行わ

れ、研究団体として助産学の質の向上を図る研究に邁進しなければなりません。来年は名古屋において、三井会長のもとに学術集會が開催されます。募集要項が掲載されておりますのでふるってご応募下さい。